

新型コロナウイルス感染症の基本的知識と感染予防対策について

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、一般の風邪の原因となるウイルスの一種で、これまでに流行した SARS や MERS と同じコロナウイルスの仲間です。季節性インフルエンザウイルスと比較すると、全体的な感染力は強く、感染力の動態としては発症の 48 時間前から感染力が強くなり始め、ピークは発症前日でウイルス排出期間は 10 日以内と言われています。また、学生等の若年層に多いとされる無症状患者でもウイルス排出量は多く、感染力も高いことからステルス攻撃型ウイルスと言われており、人からの感染を防ぎ、人への感染をさせないためには、個々人が基本的知識を学び正しい感染予防対策を講じる必要があります。学生の皆様においては、このことを十分に理解し、近畿大学生として、また、社会の一員として、規律ある行動をされることを強く望みます。

1. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)とは

- ・一般の風邪の原因となるウイルスや、これまでに発生している SARS や MERS と同じ、コロナウイルスの仲間の一つです。ウイルスには幾つかの種類がありますが、コロナウイルスは粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質の膜で覆われており、アルコール等により脂質の膜が破壊されると、その感染力は失われます。
- ・このウイルスは自身で繁殖することはできませんが、粘膜などの細胞に付着して体内に入り込むことで初めて増殖します。健康な皮膚には入り込むことが出来ず、表面に付着するだけでは体内に入り込めず、手洗いを行うことで流すことが出来ます。また、物の表面に付着したウイルスは、物の種類や周囲環境によっては数時間～72 時間ほど感染力が保持される可能性があります。時間経過とともに壊れて感染力を失います。

2. 新型コロナウイルス感染症の感染経路と感染予防対策について

- ・主要な感染経路は「飛沫感染」であり、とりわけ「マイクロ飛沫感染」に対し警鐘が鳴らされています。「接触感染」の可能性は限定的ですが、注意喚起の継続が推奨されています。感染経路とその対策については次のとおりです。
- ①飛沫感染: 感染者の飛沫(発生源: 発声、くしゃみ、咳、痰を出す、唾を吐く)が周囲 1~2m に飛び散った際に、飛沫と一緒にウイルスが飛び散り、そのウイルスを口や鼻から吸い込むことで、気道粘膜などから感染します。5 分間話すだけで、咳一回分に相当する約 3000 個の飛沫が発生しています。
⇒効果的な予防対策: 常時、正しくマスクを着用し、咳エチケットを守る。
- ②マイクロ飛沫感染: マイクロ飛沫感染は、その発生源は飛沫と同様ですが、飛沫(直径 $\geq 5\mu\text{m}$)よりも小さい微粒子を介する感染です。飛沫は 1~2 メートル程度で落下するのですが、マイクロ飛沫の場合、空気中で拡散してしばらく漂うため、特に換気の悪い密室において発生し易くなります。
⇒効果的な予防対策: 飛沫感染同様に正しいマスク着用が有効ですが、抜本的な対策としては「3 密を避ける」ことが大切です。「密閉」された空間で、多くの人(「密集」と「密接」)する行動を避けることが最も重要です。定期的な部屋の換気で、マイクロ飛沫の滞留を解消できます。
- ③接触感染: 感染者の飛沫が付着した物品(媒介物)等に触れると、手にウイルスが付着し、その手で自分の口や鼻を触れることにより粘膜から感染します。
⇒効果的な予防対策: 重要なのは、こまめに手洗いすることです。アルコール消毒液を携帯し、自分の手で不特定多数が触れる可能性のある物(ドアノブ、共用物品等)に触れた後には(出来れば、エチケットとして触れる前にも)、その都度、手指消毒を正しく行うことをお勧めします。常にマスク着用を心掛けていれば、不用意に指先で鼻や口を直接触れてしまうことも予防できます。

感染対策に関する基本的事項

【セルフプロテクションとは】

- ・各自が常時マスクを正しく着用すること(鼻から顎まで覆う状態)
 - ※サージカルマスク規格に準拠したマスクを推奨:マスク性能表示として、BFE(細菌ろ過効率) $\geq 95\%$ 及び PFE(微粒子ろ過効率) $\geq 95\%$ を確認
- ・アルコール消毒液(濃度70%推奨)を使用し、何かに触れる前、触れた後に手指消毒を行うこと
 - ※アルコール消毒液を入れた携帯用マイボトルの携行を推奨

以上の2点を徹底することで、自らを感染から守り、家族や友人を感染から守ることに繋がります。マスクを着用して公共交通機関をご利用頂ければ、感染者と1m以内の距離に乗車したとしても、二次感染リスクは0.1%(→1,000回に1回の頻度)よりもさらに低減化されます。また、マスク(サージカルマスク準拠)を正しく着用していれば、仮に見知らぬ感染者の隣に着席しても、濃厚接触者には該当しません。

以上が、セルフプロテクションの基本的な考え方となりますが、日々の健康管理等に関する事項はあらためてご連絡いたします。

【入構時の対応】

- ・キャンパス内では、マスク着用及び、手指消毒によるセルフプロテクションの徹底

【入構後の対応】

- ・授業出席時にカードリーダーで学生証認証を実施
- ・キャンパス内の施設のうち、学生支援課、就職室、学習支援室、食堂等では入口でカードリーダーによる学生証認証を実施
- ・三密の回避(密閉、密集、密接の状態が同時に発生すること)
- ・建物内の定期清掃(トイレ等の共有部分の消毒・清掃)

【学科棟・各号館の対応】

- ・建屋入口、エレベーター前へ消毒液を設置
- ・事務部各窓口へ、パーテーション及び消毒液を設置

【講義室・実験室等の対応】

- ・教室等の収容定員で授業を実施
- ・教室等の窓や扉を開けて、定期的な換気を実施

【食堂の対応】

- ・消毒液の設置
- ・カードリーダーによる学生証認証を実施
- ・座席へパーテーションを設置
- ・食事の際は向き合っただけの会食と会話を禁止することとし、黙食の徹底

【メディアセンター(図書館・情報教育センター)の対応】

- ・施設開放時間: 平日 8時45分～20時まで
土曜日 8時45分～17時まで

※図書館利用、オープン実習室(PC)は施設開放時間と同じ
情報教育センターPC教室は授業後に施錠

【就職室の対応】

- ・就職相談:事前予約制で、Zoomまたは対面相談

【体調管理の徹底】

- ・少しでも感染等に見られる自覚症状がある場合は通学を控え、検査受診を行うこと
- ※感染が判明した場合、保健管理室へ連絡してください。

Tel:082-434-7008

【その他】

- ・22時以降の研究活動は、原則として禁止
- ・一般部外者の入構は引き続き制限を実施

なお、本学では、新型コロナウイルス接触確認無料アプリ「COCOA」をインストールし、活用することを要請します。

厚生労働省ホームページ:

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html

以上